

ら。ふ。れ。た。

2020年
9月号
vol.74

発行：株式会社ラプロス
発行人：代表取締役 樋口繁樹
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目12番1号
日之出福岡ビル5階
TEL092-737-2211
FAX092-737-2212
弊社のHPは下記URLよりご覧いただけます。
<http://www.lapros.co.jp/>

継続しましょう



手洗い・うがい

2020年7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に福岡、長崎、また中部地方など日本各地で発生した集中豪雨より被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。コロナ禍での復興は心身ともに負担が大きいかと存じます。皆様の日常、皆様の笑顔が一日でも早く取り戻せますよう、皆で助け合いながら乗り越えていきましょう。

「新しい生活様式」で 気になること～PART2～

前号から2ヶ月が過ぎ、今思っていること。想像以上に早く第二波は来るんだな～ということと、それは取りも直さず人間が関わり合いながらでしか生きていけないんだな～、ということです。経済活動や学びの場など、リモートワークによってかなりの部分是对応可能になってきました。スポーツ分野でも野球、サッカーなど5000人まで観客を受け入れ、発声なしの拍手による応援、リモートによる応援など少しずつ定着してきました。ただ、場を共有しないチームワーク、人間関係の深化は可能か？という僕の不安という課題の解決方法はまだ見えません。

8月6日の西日本新聞朝刊の「コロナ禍を考える」対談シリーズで東浩紀氏(哲学者)と伊藤亜紗氏(美学者)が語っているのが印象的でした。

東氏――『三密を避ける、というのは「感情を共有する場所を排除する」ということです。飲み会も行かなくていいし、スポーツ観戦も家で見ればいい、ライブもオンライン配信でいいじゃないかと。でも「みなさんの感情はそれで大丈夫なのか」と思ってしまいます。生活の場で感情が満たされないと、安っぽいポピュリズムが入り込んでくる気がします。』

伊藤氏――『感情は過去の経験の蓄積によってできたある種の判断能力でもあります。いろいろなことが数値化されているが、その分析的な判断を補完してくれる。』

《中略》

東氏――『短期的な効率性と長期的な持続可能性は異なる。…短期的な効率性を考えたら、人間関係のノイズを切り捨ててデジタルにした方がいいと感じるひとはいるでしょう。しかし、それを追求すると組織も学問も持続性を失ってしまいます。』



まさにそうだと。僕の不安(課題)はそこなのです。また、愛読誌「スポーツグラフィックNUMBER」1008号では映画監督の西川美和氏の連載エッセイでも氏いわく『ぎゅうぎゅうに人の埋まった満員のスタジアムで、競馬場や国技館で、客も競技者も汗と汗を混じり合わせて一つの戦いを作ってきた人類の習慣は、この先も長く封印されてしまうかもしれない。つばきを飛ばして大声で誰かを応援したり、抱き合って喜びを分かち合うことを否定された先に私たちが見つける人生の楽しさは何だろうか。…自分と他人との間にくっきりと境界線を作ることが是とされ、人類が懸命に信じようとしてきた連帯のヒューマニズムが否定されつつある、このいわば「悪魔の仕掛け」に対して、ただズリズリと土俵外まで寄り切られるのか、それともとんちの利いた巻き返しが図れるのか。』

そう、《とんちの利いた巻き返し》が今の僕たちのウィズコロナ、アフターコロナのテーマなのだと思います。これは我々世代の郷愁みたいなものではないと言い切れません。愚息と同世代の取引先のリモートワーク当たり前世代の方ですら、リモート結婚式などはちょっとイメージ湧きません無理です、と。京大の山極総長はゴリラの研究で有名な方ですが、コロナ・ショックに関して『ゴリラは集団から数日離れただけで、元の集団に戻れなくなります。「身体が共鳴し合っていること」が群れのメンバーであることの証しなのです。人間は共鳴から外れたとしても、許容力を持っているため、集団に戻ることができず。その許容力を生かした社会をつくるべきだと思う。』と言っています。(日経ARIA)



不安を課題に、そして課題にトライして実感をつかみ共有し深いところで分かち合える、その「とんち」の答えはもちろん1つではないと思います。行動は引き続き制約を受けますが、とにかく動きながら考えていこうと思う今日この頃です。



代表取締役 樋口繁樹

コロナ禍で気づいたこと 文：山森

こんにちは。戸建ての営業をしている山森です。

コロナ禍で世の中大変な状況が続いておりますが皆様どのようにお過ごしでしょうか。外出自粛、リモートワークなどを少なからず体験し「お家時間」を過ごして気づいたことがあります。

今年小学5年生の息子は3月からの休校期間中に料理に目覚めました。僕の母が美味しいものが好きな孫(僕の息子)へ料理本(1970年代に初版されたヴィンテージ図解付きの本)をプレゼントしてくれました。時間が有り余っていたため、その本を見ながら味噌汁⇒ラーメン(麺は市販品)⇒ハンバーグ⇒ミートローフ等と徐々に難しい料理を妻の助けを得ながらマスターしました。どれも失敗はなく本当においしくて最高の料理を振舞ってくれます。



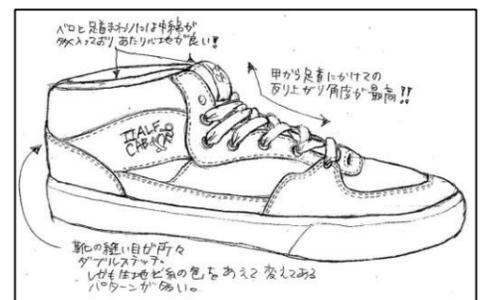
料理本(1970年代に初版されたヴィンテージ図解付きの本)

僕の誕生日には1週間前から献立を考え必要な材料を書き出し作る工程を自身の料理ノートを見ながらのイメトレ(笑)。料理を作ることに興味など持たなかった僕は只々関心するばかり。そんな長男ですが最近料理系のYouTubeにハマっております。コロナ禍のため妻の実家への帰省自粛で短い夏休みの楽しみが何もしないではかわいそうなので家族4人で1泊2日のキャンプへ行きました。BBQでスモーク料理を作るなど調べ&実行をお手本のように繰り返し成長したと感心しました。



小学2年生の次男は長男とは方向性が違い、ちょっとミーハーなのでギター系のYouTubeを見て自分もやりたいと言い出しました。飽きっぽいのでどうすべきか考えものですが、絵を描いたりすることが好きなので芸術系の才能が隠れているかとも思ったりもします。以前記事で書かせて頂いた僕の大好きなスニーカー“VANS/ハーフキャブ”を見て自分もその靴を履きたいと言ってきました。次男は僕の子供のころと容姿が

全く同じなので趣味・嗜好まで似ているのかもしれませんが。小学2年生で既に靴のサイズが23cmで特大のため将来大物になる可能性大です(笑)。



2020年5月(72号)掲載の“VANS/ハーフキャブ”

そして、そんな2人の子供達の宿題をみたり習い事の送迎をしたりしながら、仕事をしつつ家事をこなす妻はすごいなと思いました。土日の休みも常に子供と一緒に一人の時間もなく、コロナ禍で唯一息抜きのできる実家にも全然帰れない。今まで家の掃除をしたり子供の面倒をみたり僕なりに妻をサポートしているつもりでしたがその考えの根本が間違っておりました。家事、育児は手伝うのではなく、一緒に頑張るものだと感じました。さすがに料理はストレスが溜まるのでやりませんがそれ以外のことを積極的にやっていくぞと心に誓い家庭と向き合う今日この頃です。最近明るいニュースがあまりありませんが、家族と過ごす時間が増えたことにより気づき得たことも多く悪いことばかりではないなと思いました。

免許皆伝

MENKYOKAIDEN

その54

『こんなときの換気』の巻

私アラキの戸建てへの思いをつらねるこのコーナー、54回目となりました。日々報告される新たなコロナ感染者数は、なかなか目に見えて減少するまでにはならないようです。感染予防策として、マスク、手洗い、三密を避けるなど言われていますが、建築にできることとして、今回は換気について考えてみます。建築の側からの考察ですので、コロナ対策に絶対に有効という意味ではないことを予めお断りしておきます。

緊急事態宣言が出されていた4月にはバスの窓はほぼ全開で、夜帰宅するときにはまだ肌寒い春の夜風がビュービューと窓から入ってきて、コートを手離せなかったことを覚えています。最近、窓を開けていないバスが多いと思っていたら、バス車内に「約3分で車内の空気が入れ替わります」と書かれていました。窓の開かない新幹線も、6～8分で車両内の空気が入れ替わるように換気されているそうです。このように工学的に根拠のある事実をきちんと示してもらえると、無用な心配をせずに済みます。

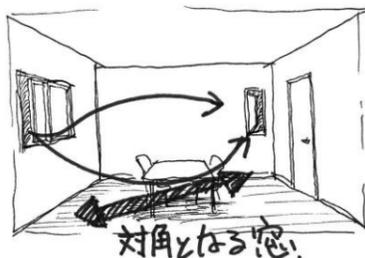
建築の場合はどうなのでしょう。

2003年より、建築基準法により全ての建築物に24時間換気が義務付けられましたが、シックハウスを防ぐことが目的として定められたものであって、換気の回数は2時間で1回以上の割合と定められています。コロナ対策

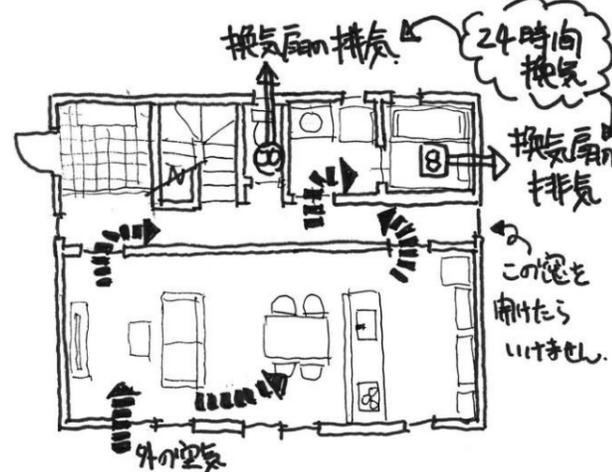
としては十分ではありません。厚生労働省では、コロナ対策の換気回数として1時間あたり2回以上を推奨しています。この2回というのは、30分ごとに窓を開けて空気を入れ替えるということだけではなく、常時窓を開けて30分に1回の割合で空気が入れ替わるようにするというでもよいのです。

例えば、リビングダイニングキッチンで30㎡(約18帖)の広さがあり、天井高さが2.5mとすると、室内の体積は75立方メートルです。窓を常時開けたままとして1時間に2回換気するとすると、150立方メートルの空気が窓を通過すればよいことになります。1時間=60分=3600秒なので、1秒あたり150÷3600=0.042立方メートルの空気が窓を通過すればよいことになります。窓の位置での風速を毎秒1m、窓の形状は高さ90cmの引違い窓とすると、0.042÷1÷0.9=0.047(m)。つまり、5cmほど開けておけばよいという計算になります。ま、計算上ですので、30分ごとに窓を数分開けるという方法のほうが簡単ですね。

空気が外気と入れ替わるためには、空気の入口と出口、つまり窓を2ヶ所開けなければなりません。このとき、窓は部屋の対角となる位置となると効率よく換気できます。福岡市は北に海、南に山があるため、夏季には日中は海から山、つまり北風が吹き、夜間は山から海に南の風が吹きますので、実際の風速や風向きを考慮してみるとよいと思います。



換気をするのは、ウイルスの飛沫が含まれているかもしれない室内の空気を外に排出するためですから、人が常時いない部屋や廊下は飛沫がないため計算上は無視してよいことになります。トイレや浴室は、臭気や湿気を外に排出するために換気扇があるのですが、その近傍の窓が開いていると、外の風によって臭気や湿気を含む空気が室内に逆流してしまうこともあります。また、トイレや浴室には、24時間換気を行うための換気扇が設置されていて常時運転しており、廊下を通じて居室の空気を換気していますので、廊下などの窓を開けておくと、これが機能しなくなります。24時間換気によって、夜に寝ている間に3～4回ほど換気されていますから、爽やかな朝が迎えられることにもなるのかと。



まだ暑い日が続くようですが、やがては寒い季節もやってきます。コロナ対策は必要ですが、快適に過ごすことができる室内環境を維持することも建築の役目です。室内環境の維持、すなわち冷房、暖房も考慮しながら、「計画換気」という考えで空気の流れを換気扇や自然の風でコントロールし、冷暖房も考慮した無駄のない効率的な換気と空調を行いたいですね。

野村の

こころの だわりの



～ 神社めぐり ～

私の最近のこだわりは各地の神社をめぐることです。中央区にある警固神社や水鏡天満宮などはもちろん定期的にお参りしていますが、最近フェリーで壱岐に行きました。

知らなかったのですが、壱岐は日本最古の歴史書である「古事記」に登場する島で、知る人ぞ知る神々の宿る島です。

島内には、小さな祠まで入れると約千もの神社があるそうです。その中の「月讀(つきよみ)神社」、「小島神社」「龍蛇神(りゅうじゃじん)神社」、「壱岐神社」に行きました。

どの神社も福岡には無い、また違った空気の神社でした。中でも小島神社は、「日本のモンサンミッシェル」と呼ばれ、干潮になると島への道が現れ、島自体が神社という珍しいところでした。

壱岐は、神社めぐりが好きな私には最高の場所です。



小島神社



龍蛇神社

また、神社めぐりは思わぬ神社知識をもらえることがあります。先日、山口県防府市に行ったところ、「せっかくなので地元の神社に参拝しよう」と調べたら、なんと太宰府天満宮と並ぶ日本三大天満宮の一つ、防府天満宮がありました。



防府天満宮

全く知りませんでした。たまたま行った先に福岡が誇る太宰府天満宮と並ぶ天満宮があるとは・・・。神社めぐりによる神様の思し召しなのかもしれません。

ご家族・ご友人をご紹介ください！

～2020年9月末まで～

10 商品券 万円分



ご紹介者さまにプレゼント！

※ご紹介者さまからの紹介でご成約に至った場合

弊社で現在販売中の新築戸建、プロスペリテシリーズにつきまして、ご紹介キャンペーンを実施中です！ぜひ、ご家族・ご友人の方をご紹介ください！プロスペリテシリーズの情報につきましては、下記QRコードから戸建「プロスペリテ」特設サイトをご覧ください。

Instagramやってます



@lapros_prosperite

編・集・後・記

久保山

森信三という教育者の言葉で、「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎない時に——」という言葉があることを先日知りました。

前号より続く、「コロナ禍での日常の過ごし方」や「新しい生活様式」などについて原稿を読みながら編集している中で、これは人の出逢いだけでなく、人の「考え」や「価値観」もそうではないかと思えます。

インターネットの普及や移動手段の高速化などによって便利になった今の世の中で、便利になりすぎているとか、人間関係が希薄になっているだとか言われていますが、今のこのコロナ禍がきっかけで、今後の世の中の在り方を考えたり、建築の在り方を確認した

り、家族の絆が深まったり、趣味の世界に没頭したり。それぞれ見えてくる世界があるのは、今のこの世の中への新たなハードルを超えるべき時であるからではないかと感じます。このハードルを超えれば、今より更に進化した素晴らしい世界が見えてくるのかもしれない。

コロナウイルスは人間にとって決して良いものではありませんが、冷静に乗り越えて変化していくことが求められているのかなと感じました。

